

資料1

東海大学医療技術短期大学ミッションシェアリングシート 2015年度の評価修正

2016.4.27

第一階層 医療技術短期大学の使命		<p>本学は、東海大学の学園の建学の精神のもと、「教育」「研究」「社会連携」「国際連携」の四つの柱を据え、新たな社会的価値を創造していくことを使命とする。そのため、「現代文明論」を中心とする総合教育を通じて、国際的な視野で相互に協力し合い、複雑な課題にも果敢に挑戦し、問題解決していくことのできる人材を育成し、国内外を問わず広く地域・社会と連携する大学を目指す。同時に、本学を看護師という専門職業人を養成するという明確な目標を持っており、入道に根ざした深い教養を持つとともに、医学医療の進歩に対応する高い専門知識と技術をもち、生命尊重の人間観、人生観、社会観とその使命感を有する視野の広い医療者を育成する。</p>						
<p>中期目標 2016-2018</p> <p>中期目標(3年後のあるべき姿)</p>		<p>医療技術短期大学中期目標 I 6つの教育目標の達成。特に、主体的に学習を継続し、問題意識を持って探求する姿勢に重点を置いた教育を目指す。 II 研究活動を活性化し、社会へ発信する。 III 地域との連携を継続し、社会との連携を強める。 IV 国際化時代への対応を目指す。 V 管理・支援体制の充実を図る。</p> <p>医療技術短期大学教育目標 1. 人間愛を深め、生命の尊厳と人間性の尊重を基調とし、調和の取れた社会人としての成長をめざす。 2. 看護に関する理論および技術を学び、看護実践の基礎能力を身に付ける。 3. 主体的に学習を継続し、問題意識を持って探求する姿勢を身に付ける。 4. 保健医療福祉における看護の機能と社会的役割を認識する。 5. 保健医療福祉の中で生じる問題を理解し、倫理的徳徳的に対処する能力を身につける。 6. 関連諸科学を統合して人間理解を深め、看護観の確立をめざす。</p>						
第二階層		第三階層						
重点分野	中期目標	重点実施事項	達成目標	実施計画		具体的な取り組み方等 <担当委員会等>		
				2015	2016	2017	2018	
教育	I 6つの教育目標の達成、特に、主体的に学習を継続し、問題意識をもって探求する姿勢に重点を置いた教育を目指す。	1. 主体的な学習姿勢の強化	1-1 学習ポートフォリオの導入 1-2 学生カルテの導入 1-3 初年次教育の検討(入学前教育の検討) 1-4 アクティブラーニングの活用 1-5看護技術教育の強化	1-1 キャンパスメイトのリリース 1-2 キャンパスメイトのリリース 1-3 カリキュラム改正と併せて検討 1-4 アクティブラーニングの学習・活用	1-1 学習ポートフォリオの検討 1-2 学生カルテの検討 1-4 アクティブラーニングの学習・活用 1-3 初年次教育の検討 1-5看護技術到達記録の見直し	1-4 アクティブラーニングの学習・活用 1-5看護技術到達記録の検討	1-4 アクティブラーニングの学習・活用 1-5看護技術到達記録の使用	1-1,1-2 事務室 1-3 カリキュラム委員会・実習委員会 1-4 FD-SD委員会
		2. 教職員の教育能力の向上	2-1 教員のFDマップの作成 2-2 教員ポートフォリオの導入 2-3 新入教員研修体制の確立 2-4 職員のSDマップの作成 2-5 教職員の国内外の短期研修の導入	2-1 教員のFDマップの完成 2-4 職員のSD活動の検討	2-2 教員のFD手帳の検討・講習会実施 2-3 新入教員支援授業の検討 2-4 職員のSDマップの検討 2-5 教職員短期研修の検討 2-5-3年間FD-SD活動の評価及び今後3年の活動計画の作成	2-2 教員のFD手帳の使用開始 2-4 職員のSDマップの作成 2-5 教職員短期研修の企画 2-5 教職員短期研修の検討	2-1~2-5 FD-SD委員会	
		3. 授業評価(アンケート)を軸としたPDCAサイクルの活性化	3-1 授業アンケート結果の公開 3-2 授業アンケート結果を活用した授業改善 計画立案	3-1 結果の公開方法の検討 3-1 新授業アンケートでの実施と評価	3-1 結果の公開 3-2 授業改善の公開	3-1 結果の公開 3-2 授業評価を活かした授業改善 3-2 自己学習時間の分析	3-1 結果の公開 3-2 授業評価を活かした授業改善 3-2 自己学習時間の分析	3-1,3-2カリキュラム委員会・FD-SD委員会
		4. 3つのポリシーの検討	4-1.3つのポリシーの検討		4-1 3つのポリシーの検討・答申			4-1 カリキュラム委員会
		5. カリキュラム検討	5-1 カリキュラム全体の評価と改善(カリキュラム体系図などの検討)	5-1 カリキュラム全体の評価	5-1 カリキュラム全体の評価	5-1 新カリキュラム全体の構築	5-1 新カリキュラム全体の構築	5-1 カリキュラム委員会・実習委員会
		6. 国家試験対策の強化	6-1 合格率の向上 6-2 大学としての組織体制の支援強化	6-1 合格率の向上 6-2 国家試験への支援、3学年をとおした対策の検討、大学としての基本方針および組織の検討	6-1 合格率の向上 6-2 3学年をとおした対策の実施	6-1 合格率の向上 6-2 3学年をとおした対策の実施	6-1 合格率の向上 6-2 3学年をとおした対策の実施	6-1 合格率の向上 6-2 大学評価委員会
		7. 卒業生の調査	7-1卒業生評価の定期的実施		7-1卒業生評価内容の検討	7-1卒業生評価(調査)の実施	7-1卒業生評価(調査)の実施	7-1 大学評価委員会
研究	II 研究活動を活性化し、社会へ発信する。	1. 組織運営体制の強化	1-1 各自の自主的な計画への取り組みの推進(2015年～) 総合看護研究施設プロジェクト研究 助成基準の変更 1-2 学会発表及び投稿論文数の増加 1-3 科学研究費申請の推進 1-4 公的研究費管理の体制整備	1-1 プロジェクト研究助成基準の変更 1-1 プロジェクト研究件数の増加 1-1教職員に対する倫理研修の実施 1-4 公的研究費管理の体制整備	1-1教職員に対する倫理研修の実施 1-1研究奨励制度(仮)の開始 1-4 公的研究費管理の体制整備	1-1教職員に対する倫理研修の実施 1-4 公的研究費管理の体制整備	1-1,1-3 総合看護研究施設 1-1,1-4 倫理委員会、研究活動の不正防止対策委員会 1-4 事務室	
		2. 臨床施設との共同研究の推進	2-1 実習施設等との共同研究の推進	2-1 東海看護研究会との連携	2-1 東海看護研究会研究委員会を通じて共同研究が複数取り組まれる 2-2 協同研究を実施していく上で、付属病院倫理審査との課題と対応の検討	2-1東海看護研究会研究委員会を通じて共同研究が複数取り組まれる 2-1東海看護研究会研究委員会を通じて共同研究が複数取り組まれる	2-1東海看護研究会研究委員会 2-1東海大学看護研究会総合看護研究施設	
社会連携	III 地域との連携を継続し、社会との連携を強める。	1. 学生のボランティア活動の発展	1-1 ボランティア活動参加学生の増加と活動範囲の拡大	1-1 ボランティア活動の推進			1-1 学生委員会	
		2. 授業の一般公開	2-1 現代文明論の授業公開の検討	2-1 授業公開の検討	2-1 現代文明論の授業公開の検討 2-1 授業公開の地域ステムづくり	2-1 現代文明論の授業公開の実施	2-1 現代文明論委員会 2-1 カリキュラム委員会	
		3. 公開講座の活性化	3-1 近隣住民対象の公開講座実施と充実 3-2 神奈川県下の看護職対象の公開講座実施と充実 3-3 高校生対象の公開講座実施と充実	3-1 近隣住民対象の公開講座の実施 3-2 看護職対象の公開講座の実施 3-3 一日看護体験の内容の充実、高校生に向けた模擬授業の実施	3-1 近隣住民対象の公開講座の見直し 3-2 看護職対象の公開講座の見直し 3-2 看護職対象の公開講座の充実	3-1 近隣住民対象の公開講座の充実 3-2 看護職対象の公開講座の充実	3-1,3-2 事務室・総合看護研究施設 3-3 事務室	
国際連携	IV 国際化時代への対応を目指す。	1. デンマーク学術交流協定との相互交流の発展	1-1デンマーク看護研修の見直しと充実 1-2 デンマーク看護学生の受け入れの充実	1-1デンマーク看護研修実施 1-1 デンマーク看護研修の見直しと充実	1-1 デンマーク看護研修の見直し 1-1 デンマーク看護研修の見直しと充実 1-2 デンマーク看護学生の受け入れ実施	1-1 デンマーク看護研修の充実 1-1デンマーク看護研修の見直しと充実	1-1,1-2 国際交流委員会	
		2. 海外研修参加の拡大	2-1 全研修、毎年1人以上の参加	2-1 全研修、毎年1人以上の参加	2-1全研修、毎年1人以上の参加 2-1 海外研修航海、ハワイ語学研修、カンボジア研修に複数人の学生が参加する 2-2 参加学生が広報に参加し、呼びかける 2-3 新入生保護者ガイダンスで海外研修の意義を説明する	2-1全研修、毎年1人以上の参加 2-1 海外研修航海、ハワイ語学研修、カンボジア研修に複数人の学生が参加する 2-2 参加学生が広報に参加し、呼びかける 2-3 新入生保護者ガイダンスで海外研修の意義を説明する	2-1,2-2,2-3 国際交流委員会	
管理・支援体制	V 管理・支援体制の充実を図る。	1. アドミッションポリシーの具体化	1-1 アドミッションポリシーを考慮した入学試験選抜方法の策定 1-1 アドミッションポリシーの検討	1-1 入学試験選抜方法の策定 1-1 アドミッションポリシーの検討	1-1 入学試験の検討(一般、公募推薦、指定校推薦、学士、社会人) 1-1 付属推薦候補者の選抜方法の検討 1-1 アドミッションポリシーを他の2つのポリシーとの関連から検討 2-2 次学運営本部に付属推薦入学試験選抜方法の提言 2-2 第二次答申の検討	1-1 新基準に基づく2018年度入学選抜試験の実施	1-1 入試検討委員会・カリキュラム委員会	
		2. 入試選抜方法の検討	2-1 入試検討委員会の新設 2-2 各種入学試験の見直しと充実	2-1 入試検討委員会の新設 2-2 社会人入試の検討・改正 2-2 付属推薦候補者の選抜方法の検討 2-2 第一次答申	2-1 入試検討委員会の新設 2-2 各種入学試験の見直しと充実 2-2 第二次答申の検討	2-1,2-2 入試検討委員会		
		3. 防災対策の強化	3-1 緊急時防災マニュアル作成 3-2 避難訓練の充実 3-3 備蓄の整備	3-1,2,3-3 防災対策の検討 3-2 防災センターでの実施	3-1 近隣住民対象の公開講座の見直し 3-2 看護職対象の公開講座の実施 3-2 看護職対象の公開講座の充実	3-1 近隣住民対象の公開講座の充実 3-2 看護職対象の公開講座の充実	3-1,3-2,3-3 事務室 3-3健康推進室	
		4. 教育環境の設備の改善	4-1 学内ポータルシステムの確立	5-1キャンパスメイトリリース				5-1 事務室
		5. 職員の能力開発(SD)の実施	5-1 FD-SD委員会の設置	5-1 FD-SD委員会の設置				5-1 FD-SD委員会
		6. 組織運営体制の強化	6-1 PDCAサイクルの一環としての教育研究年報の改善 6-2 IRに対する共通理解、認識の強化 6-3 IR機能導入(2019年度までに導入する)	6-1 教育研究年報の検討・改善	6-1 PDCAサイクルの一環としての教育研究年報の作成 6-3 IRに対する共通認識	6-1 PDCAサイクルの一環としての教育研究年報の作成 6-3 IRに対する共通認識	6-3 IRに機能の検討	6-1~6-3 大学評価委員会・事務室
		7. 財務上、法人との緊密な連携	7-1 支出を抑え、毎年度の予算を順守する	7-1 予算の順守	7-1 予算の順守 7-1 予算委員会を機能させた学内予算管理の明確化	7-1 予算の順守	7-1 予算の順守	7-1 事務室 7-1 予算委員会

2015年度の全体評価と次年度の課題

2014年度から2015年度にかけて検討したMSシートを教職員全体に公表したのは、2015年9月であった。そのため、教職員全体に周知する期間が短く、評価も難しい現状であった。しかし、大学評価委員会主催の研修会を契機として、何故評価が必要なのかという点を教職員全員が理解する機運が高まった。また、シートとして、計画を作成することによって、それぞれの委員会・部署がどこに位置づけられ、大学全体としての活動の意義が明確になった。そして、相互の連携の必要性もこのシートからみることができるといったメリットが明確になった。しかし、今回MSシートを使用して評価した結果、管理・支援体制の項目に多くの内容が含まれていること、建学の精神、学生支援体制、リーダーシップ、ガバナンス等について抜けていることが評価をとおして明らかになった。そのため、2016年度は中期目標や計画期間、短期大学の認証評価の項目との関連を検討しながら、MSシートについて再検討していく。そして、引き続きMSシートを使用しながらPDCAサイクルを回して、本学の教育の改善を図っていく。